



もう12月。時間は過ぎるのが早い！冬休みも目前で、オススメできる本は無いかと困っていた時に……、発見！「文学の名言」。様々な文豪が掲載されているので、気になる作家が見つければ、冬休みに借りる本の参考にして下さい☆



言葉にしにくいことをなんとか言葉にしようとする。そういう無謀な挑戦をするのが文学です。「あのもやもやして言葉にできなかった気持ちは、まさにこれだ！」そんな感動を体験する今日の言葉。1月1日から12月31日まで1名言。古今東西さまざまな文学作品から名言を紹介。

- [掲載した名言(一部)]
- ・人は想像力の焦点がずれているときには、目に頼ることもできないのだ。(マーク・トウェイン)
  - ・重要なのは病から癒えることではなく、病みつづけることだ。(カミュ)
  - ・これが一生か、一生がこれか、ああ嫌だ嫌だ(樋口一葉)
  - ・妙な冒険に誘われたら、神様からのダンス・レッスンだと思うこと。(カート・ヴォネガット)
  - ・誠実に、果敢に、がんばろう。あとは真暗闇でもかまわない。(スティーヴン・キング)
  - ・悲しみは最悪のことではない。(フランツ・カフカ)
  - ・人生には笑ってよいことがまことに多い。(柳田國男)



フランスの韻文詩には、非常に厳格なルールがあります。そのルールを破って形式にとられない自由で斬新な散文詩を書き、それ以降の作家に道を拓いた**ボードレール**は、事実上散文詩の創始者といっていでしょう。

**ボードレール**という存在がなければ、**ランボー**や**マラルメ**の詩も別の形になっていたかもしれません。

**ボードレール**には挑発的な一面がありました。非常に過激な表現が見られます。現実離れた理想美の追究より、醜悪な面、残酷な面、汚い面を厭わず真実をえぐり出していく姿勢は、フランス文学の重要な要素の一つだと思います。

**続々重版!4万2千部突破!**

『バズる文章教室』は、“文才”と言われる「すぐれた文章感覚」を、できるだけ平易な言葉を使って解説する本です。主にブログや SNS など日常的に、自分の考えや体験などを発信している人に役立つようにと考えて作りましたが、めったに文章を書かない人にも、これから文章を書いてみようと考えている人にも、あまり知られていない「読みたくなる文章のからくり」を楽しんでもらうことをめざしています。



**第四十一回谷崎潤一郎賞受賞作。**人はなぜ人を殺すのか—。河内音頭のスタンダードナンバーにうたいつがれる、実際に起きた大量殺人事件「河内十人斬り」をモチーフに、永遠のテーマに迫る著者渾身の長編小説。



ゆっくりじっくり、ていねいに音楽を聴いてみませんか?世界でいちばんかんたんな「レコード」の本。なにから用意すればいいの?お金はかけられない!レコードショップって敷居が高くて…、などの不安を解消!

◆レコードのある暮らしインタビュー → AMO・高城晶平(cero)・真鍋大度(ライゾマティクス)

◆教えて先輩!レコードをさらに楽しむ方法 → 出戸学(OGRE YOU ASSHOLE)、柴田聡子、岡田拓郎(森は生きている)、DJみそしると MC ごはん、本秀康、MAYURASHKA

◆レコード Lovers35 人が選ぶとっておきの1枚! → 坂本慎太郎、tofubeats、大友良英、後藤正文、奥田民生、石野卓球、奇妙礼太郎、澤部渡(スカート)、鹿野淳、Licaxxx、向井秀徳、やけのはら、山崎まどか、西村ツチカ、内沼晋太郎、轟木節子、ほか



少女と青年に試練が訪れる——「珠、今の俺は、怖いだらう?」御堂からの依頼で、特異事案対策部隊の駐屯所に住み込みで派遣された珠。口入れ屋・銀古での経験を生かし、妖怪とも協力して部隊を支える。銀市と離れて暮らすことに寂しさを感じつつも、手紙を通して素直な気持ちを伝え合った珠は、彼の過去を垣間見る。一方の銀市は意図せず増大する自らの力と静かに戦っていた。久しぶりに会った銀市の様子を不安に思う珠。部隊の協力者・アダムからは、「妖怪も人も信じすぎてはいけない」と忠告される。そんな折、連続不審火の重要参考人として銀市が拘束されてしまい——。

「5分後に意外な結末 赤い悪夢」の巻を、新たな作品も加え改訂。笑い、恐怖、感動など、一編一編が違う趣のある最強のアンソロジー。でも、共通しているのは、「短く読めて」「最後に驚愕のどんでん返し」があること。子どもから大人まで、すべての読者を飽かさません!



「ズボラ飯」が日本を席卷する……。『孤独のグルメ』ハンター・久住昌之の徹底監修、超人気コミック「花のズボラ飯」のレシピ本がついに登場。原作に登場するメニューはもちろん、原作に登場しない「幻のズボラ飯」までが花の食欲のごとく、あふれ出しています。

レトルトを超えたレトルト、インスタントを超えたインスタント、偶然の産物鍋、3日めのカレー&昨夜の味噌汁&コンビニおにぎりの再利用テク、まさかのコラボミックス……原作に登場するメニューを分量・時間までしっかり掲載し、誰でも作れるようにわかりやすく解説しました。また、原作に登場しない「幻のズボラ飯」が見られるのもこの本の最大の特長。

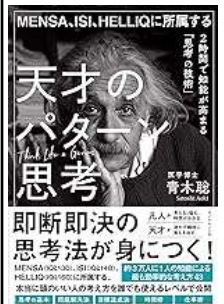
切らずに作れるヘルシー野菜料理、炊飯器にぶっこむだけご飯、焼くだけ&チンするだけの満足おかず……「ズボラ飯を超えたズボラ飯」が花の食欲のごとく、この一冊からあふれ出しています。

きっと「ズボラ飯」のトリコとなってしまうこと間違いなしです。花になってしまったあなたは、こう叫ぶことでしょう。「うんま〜い!」。

★たちまち重版!読者の声、続々!

「予測して動くことの必要性を感じた」「普通の人の思考との違いが学べた」「即決って、やみくもにやるのではなく、明確な勝算があつてのことなのですね」「パターン認識で共通項を見つけるってこういうことかと、ようやくわかった」

・何かを学ぶためには、自分で体験する以上にいい方法はない——アルバート・アインシュタイン  
天才の考え方を知り、体現することで、今まで見えていなかった世界に触れ、一生かけても得られなかった成果が手に入る!



「つい考え込む」「どれがいいか悩む」「何をやるにも時間をかける」など、本来であれば、じっくり考えて最良の方法で成果を出すことは、おかしなことではありません。ただし、その一方で、「迷わず瞬時に答えを出せる」人がいます。「天才」と呼ばれる人たちです。今まで苦労していたことが、天才の思考法に触れることで、考え方そのものが劇的に変化します!それは、約3万人に1人(IQ160以上)の知能による最も効率的な考え方です。

- 凡人が試行錯誤しているなか、天才は時間をかけずに成功法を導き出す
- 凡人がようやくたどり着いた答えに、天才はあっという間に到達してしまう
- 凡人が一生懸命説得している横で、天才はサクッと希望を叶える
- 情報に翻弄されず、問題の本質をすぐに見抜ける
- 自分の基準が明確になり、判断が早くなる
- 「できない」といって諦めず、「できる」ようになる方法を考えられる
- 目的を叶えて、敵を作らない方法をとる
- 欲求を抑えつけず、やりたいことを我慢せずにやる



本書を読めば、上記のような現実が待っています!天才の思考法を習得すれば、人生は劇的に変わる!



陶磁器のうるしによる修復法「金継ぎ」から、漆工芸の基本である「塗り」の「拭き漆」、「加飾」の基本となる「漆絵」「蒔絵」、自由な造形物を漆で固める「乾漆」技法までを紹介。『炎芸術』連載を修正して書籍化。



冷笑ではない。もっと大事なことに目を向けようという呼びかけだ。何がもっと大事なのか?選挙や政治、そして民主主義というゲームのルール自体をどう作り変えるか考えることだ。

ゲームのルールを変えること、つまり革命である——。

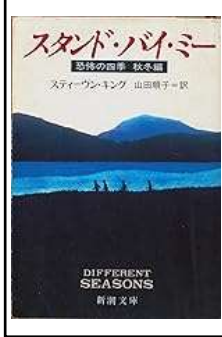
22世紀に向けて、読むと社会の見え方が変わる唯一無二の一冊。



『蒲団』読む人、書く人、生きた人。百年という時間。

日系の学生エミを追いかけて、東京で行われた学会に出席した花袋研究家のデイブ・マッコーリー。エミの祖父の店「ラブウェイ・鶉町店」で待ち伏せするうちに、曾祖父のウメキチを介護する画家のイズミと知り合う。彼女はウメキチの体験を絵にできるのか。

近代日本の百年を凝縮した、ユーモア溢れる長編小説。



森の奥に子供の死体がある——噂を聞いた4人は死体探しの旅に出た。もう子供ではない、でもまだ大人にも成りきれない少年たちの冒険が終わったとき、彼らの無邪気な時代も終わったのだった……。

誰もが経験する少年期特有の純粋な友情と涙を描く表題作は、作家になった仲間の一人が書くという形をとった著者の半自伝的作品である。他に英国奇譚クラブの雰囲気をよく写した1編を収録。



内人と創也が究極のゲーム作りのために集っている砦。ある日その入口へと続く細い道に、大量の部品が置かれていた。拾って組み立ててみると、それはジュークボックスで、100円を入れる度に物語が語れた。

物語は全部で7つ。一度読んだだけでは終われない、恐怖のゲームが幕を開ける!

